

指定管理者による公の施設の管理運営状況(令和5年度分)

施設名	群馬県青少年会館	所管課	教育委員会生涯学習課
指定管理者名	(公財)群馬県青少年育成事業団	指定期間	5 年
利用料金制	☐ 導入 ☒ 一部導入 ☐ なし		R2.4.1 ~ R7.3.31

※利用料金制とは施設の利用に係る料金を指定管理者の収入として収受させる制度。「一部導入」は利用料金制を導入しているが指定管理料を支出している施設

1 施設の概要

施設所在地	前橋市荒牧町2番地12
指定管理業務内容	・群馬県青少年会館の管理及び運営 ・青少年健全育成事業の実施

2 職員の状況(令和5年4月現在)※主に指定管理業務に従事する職員数

通常(フルタイム)の職員:	7 人	
短時間雇用の職員:	1 人	合計: 8 人

3 収支の状況(令和5年度決算額)

(円)

収 入		支 出	
指定管理料	67,773,000	人件費	47,834,820
利用料収入	8,443,375	委託料	3,855,588
その他(事業参加者負担金収入等)	75,651	光熱水費	5,014,616
その他(自主事業収入)	1,166,252	租税公課費	5,029,667
		その他(管理運営費等)	8,366,576
		その他(自主事業支出)	1,166,252
収入合計	77,458,278	支出合計	71,267,519

※指定管理者の指定管理業務等及び自主事業に係る収支を記入(指定管理者団体全体の収支ではない。)

4 利用の状況

	令和5年度(実績)	(参考)令和4年度(実績)	(参考)令和3年度(実績)
①年間利用者数(人)	32,206	21,748	14,467
②使用料収入(円) (県納付額)	0	0	0
③利用料収入(円) (指定管理者収受額)	8,443,375	4,142,705	2,715,805

5 施設における実施事業の状況

事業・イベント名	開催日	参加者数	内容	参加者の感想等
子どもふれあいワークショップ	2/24	16人	【目的】ボランティア活動や業務等で子どもの居場所づくりや団体活動に関わりのある指導者や青年を対象に子どもとのよりよい関係についての学びを提供し、青少年教育に係る人材を育成する。 【内容】レクリエーション実技、講義	・遊びにおいて子どもの感じ方と、大人側の目的(ねらい)に違いが生じることがわかった。目的に対してどのように楽しさを提供していくか考えさせられた。 ・図を用いた説明がわかりやすい。班での意見交換がたくさんできた。 ・障害のある子の気持ちや、周囲の見え方など動画教材で知ることができた。
中学生・高校生交流ボランティア体験	7/8・7/9	8人	【目的】県内の中学生・高校生に対し、ボランティア活動に対する知識を伝えるとともに、活動の実践を通して交流を深める機会を提供する。また、ボランティアに対する意識啓発を行うことにより、継続した活動を推進する。 【内容】ボランティアに関する基礎的知識の習得、ボランティアの実践、参加者同士の交流	・実践活動では小学生が相談してくれて、嬉しかった。ボランティアの基礎・子どもとの関わり方が分かり、今後に生かすことができる。今後も色々なボランティアに参加してみたいとなった。 ・今回、このボランティアで参加者同士が仲良くなることができ、とても楽しかった。子ども達と関わって大変だったが、それ以上に子ども達がかわいいと思い満足できた。
体験活動・ボランティア活動支援センター	通年	5件41人	【目的】青少年及び指導者のボランティア活動に関する情報を収集し、ボランティア活動を希望する青少年等とそれを必要とする学校や青少年団体との連絡調整を行い、協働の機会を設ける。 【内容】ボランティア活動に関する情報収集と提供、活動希望者と希望者を受け入れる学校や青少年団体との連絡調整	県・前橋市、前橋市社会福祉協議会の担当者が集い、若者ボランティアの活用と団体の世代交代と活動継承について情報交換を行った。当事業団から提案したイベント(ボランティアフェス[仮])について、連携して実施する見通しが立った。
広報のためのドローン講座	9/19	17人	【目的】群馬県青少年会館及び群馬県内の青少年施設、各青少年団体の周知及び広報に活用できるドローンを使った動画撮影の理解と操作技術を習得する。 【内容】ドローンに関する基礎知識の講義、ドローンを使用した実技	・スライドが簡潔にまとめられていた。ドローンについて知識のない者でも分かりやすかった。 ・とても分かりやすく教えて頂き、よく理解できた。操作には、技術が必要なことも分かった。 ・上下、左右、前後を機体の向きにかかわらず、頭で考えながら動かしたが、なかなかスムーズにいかなかった。
心のバリアフリー事業(ふれあい・ゆうあい交流フェスタ)	実行委員会第4回 事前研修 10/14 開催日 10/15	実行委員会(4回) 事前研修・会場準備 実行委員、団体指導者131人 ボランティア59人 開催日 参加者198人	【目的】障がいのある人となない人がともにふれあい、互いに理解し合える場作りに向けて、障がいのある子どもを支援する団体や青少年関係団体関係者等と協働で実施するという趣旨でフェスティバルを開催する。 【内容】障がい児の活動を支援する団体等との連絡調整、実行委員会組織の設置、「ふれあい・ゆうあい交流フェスタ」の開催	・規模は以前よりも縮小されているが、ステージ発表、体験ブース、バザーコーナーなどでそれぞれのコーナーで障がいのある人(子)もいない人(子)も一緒に楽しむことができた。 ・今年はステージ発表ができた。一日楽しく参加できた。 ・青少年団体から参加した。係を担当し、参加者やボランティアたちとたくさんの交流ができた。

親子ふれあい体験教室	第1回 7/22 第2回 7/23	2日間合計 36人 青少年団体ボランティア7人	【目的】親子の共同作業を通して、親子と参加者、ボランティアのふれあいを深める。また、レクリエーションにより、交流を図る。 【内容】親子で一緒に木工作業、制作作品の紹介、参加者と青少年団体とのレクリエーションによる交流	・このような事業をしている事を初めて知り、夏休みの時間を使って体験できる良い機会だと思って申し込んだ。今回のような物づくりは、自宅ではできないので有意義だった。 ・初めて触れる物が多かったが、徐々に上達していき、子どもが自ら取り組む姿勢が見られ、親として嬉しさを感じる時間だった。 ・工具を使う作業に対して緊張したが、親子で協力しながら取り組むことができて、非常に良かった。コミュニケーションゲームも楽しめた。
高校生写真講座	9/2	17人	【目的】デジタルカメラ写真に対する知識や技能を高める機会を高校生に提供し、班活動による写真撮影および組写真作品の制作・発表を通して、参加者同士の交流を図る。また、他事業で撮影ボランティアとしての活動機会を提供する。 【内容】撮影活動を通じた交流、デジタルカメラの基礎知識・技術の習得、グループワークによる組写真の制作	・題名の付け方で悩むことが多いので参考になった。 ・講義の資料は簡潔で、写真も使用されていてわかりやすい。 ・写真の配置、見せ方、プレゼンについてなど意見を言い合うことができた。 ・組写真の作り方についてとても勉強になった。 ・組写真に苦手意識があったので、学んだことを生かし、今後も組写真に取り組みたい。
交流文化体験	第1回 6/24 第2回 6/25	2日間合計 37人 高校生ボランティア11人 青少年団体7人	【目的】児童と留学生、高校生ボランティアが海外や日本の文化をテーマとした体験活動を通じて、多様な価値観に触れるとともに異年齢集団における交流を図る。 【内容】青少年団体指導者のアイスブレイク、留学生の出身国についての話や遊び、日本文化体験	(小学生)韓国と日本の食事の作法の違いがわかった。 (小学生)英語を勉強してもっとアメリカ人と話したい。 (留学生)子どもたちに関心を持ってもらうための資料作りが難しかった。 (留学生)高校生ボランティアが手伝ってくれたので本当に良かった。また小学生と交流したい。 (高校生)お手伝いだけでなく自分たちも楽しめた。
高校生と小学生の夏休み交流活動	8/3	高校生14人 小学生19人	【目的】部活動や委員会活動に励む高校生に対し、小学生の体験教室に関わる機会を提供する。事業を通じてボランティア活動の達成感から年少者を思いやる心を育む。 また、小学生に体験教室への参加を通して、科学への興味関心を高める一助とすると共に、有意義な交流の機会とする。 【内容】アイスブレイク、天文学(月について)、科学工作(望遠鏡づくり)	(高校生)興味を持ってもらうための説明をすることで自身の理解が深まった。 (小学生)高校生が優しく、とても分かりやすい説明で上手にすることができ、嬉しかった。 (小学生)高校生と小学生が交流できる機会があれば、また参加したい。 (小学生)望遠鏡は作ったことがなかったので、楽しかった。もっと色々な物を作ってみたい。

つくってあそぶ体験教室	7/9	小学生20人 指導者3人 中学生高校生ボランティア8人	【目的】制作を通して、参加児童の創造力を養う。また、制作したものをういて遊ぶことにより、参加者同士のふれあいを深め、新たな人間関係のネットワークの構築を図る。 【内容】レクリエーション、バルーンアート制作	・みんなと一緒にバルーンアートができて、嬉しかった。また来たい。お兄さんやお姉さん(中高生ボランティア)に教えてもらい、嬉しかった。 ・先生達の説明や教え方が分かりやすく、優しかった。 ・たくさんの人と一緒にできて良かった。 ・始めは風船が割れると怖かったけど、だんだん楽しくなってきた。
青少年団体活動支援事業	【宿題お助け隊】 8/6 8/7 【夏休み茶道体験】 8/20 【親子で茶道教室】 12/10 【君の飛行機はどこまで飛ぶ!?】 1/28 【ボランティアのつどい】 3/9	【宿題お助け隊】 2日間合計 小学生100人 団体指導者21人 高校生ボランティア 31人 【夏休み茶道体験】 小学生15人 団体指導者5人 【親子で茶道教室】 12/10 小学生40人 団体指導者7人 【君の飛行機はどこまで飛ぶ!?】 小学生32人 団体指導者10人 高校生ボランティア19人 【ボランティアのつどい】 青少年団体指導者8人 高校生ボランティア 28人 小学生40人	【目的】体験活動を通じ、青少年の課題解決能力や社会性を育む。また、各青少年団体の特性を生かした体験活動の提供と高校生のボランティアの養成を行い、団体活動の魅力を発信する。 【内容】青少年団体の情報収集、青少年団体の事業支援、青少年団体と共催事業の開催、群青連協加盟団体に担当配置	【宿題お助け隊】 (小学生)自分が分からない事や知らない事を教えて貰った。私も今日教えて貰ったお姉さんとお兄さんみたいになりたい。 (高校生)はじめは緊張していた子でも、積極的に接することにより、少しずつ会話を楽しめるようになった。最後には、別れを惜しんでくれる子もいて、大変やり甲斐を感じた。 【夏休み茶道体験】 (小学生)お茶を初めて点てたが、とても良い体験ができた。お菓子のいただき方やお茶の点て方を学んだので、帰ったら家族に話したい。 (団体)定員は、今回のように10名前後が指導しやすくて丁度良い。 【親子で茶道教室】 (小学生)お茶の入れ方や和の礼儀を知れて良かった。お茶とお菓子がとてもおいしかった。 (団体)参加者が茶道を体験して学んだこと・感じ取ったことを、日常生活で自発的に取り入れてくれると嬉しい。相手に対する礼儀や季節の移ろいを感じるなど何でもいい。 【君の飛行機はどこまで飛ぶ!?】 (小学生)お兄さんやお姉さんと仲良くできたことが嬉しかった。折り紙が好きなので楽しかった。 (高校生)次のボランティアに繋がる良い経験になった。 【ボランティアのつどい】 (団体)高校生が活動できた。 (高校生)みんなと協力しながら準備したり、小学生を楽しませることができた。 (小学生)知らないお友達と遊べた。

ぐんま青少年ねっと	通年	【学習・ワークスペース 利用者】 172人	【目的】Web・ブログ・SNSにより青少年会館及び、青少年健全育成事業の情報を発信する。また、会館利用者がインターネットを利用できる環境を整え、青少年の自己学習や情報収集を支援する。 【内容】会館運営、事業開催情報の提供、Web 等の管理・更新作業、事業・利用に係る通信環境、データベース等の管理と運用	X(旧Twitter)で若年層向けに、トレンドキーワードなどを活用し、認知度を高めるための投稿を行った。
青少年活動事例調査	通年	県内10カ所 訪問、視察	青少年会館の運営及び主催事業の参考となる公共施設及び青少年対象のプログラム等を視察する。また、社会教育関係者や青少年団体、地域団体が実施・参加する事業や研修等に職員が赴き、関係者と情報交換を行うとともに、団体や社会教育関係者との今後の業務に向けた連携・協働関係を築く。	・活動事例や児童生徒を対象とした体験教室の実績等について関係者から具体的に尋ねることができた。 ・訪問先の施設運営の取り組みが参考になった。
(参考)自主事業	青少年会館友の会育成事業	会員数 54名(成人、大学生、高校生) 主な活動 【外部講師依頼の協力】 「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」(県生涯学習センター) 成人会員6名(講師等)、参加者43人 【自主企画】 「クリスマスリースづくり」 成人会員1名(講師)、参加者3人 「ゆめすくーる2023」全4回 大学生会員延べ107名、小学生258人		外部講師依頼の協力「親子でチャレンジ！バルーンアートをつくろう」 ・自分たちのできることで親子に喜んでもらえた。外部との協働も楽しめた。 自主企画「クリスマスリースづくり」 ・多くの自然素材を用いて、オリジナルの作品を完成することができた。 自主企画「ゆめすくーる」(小学生)大学生が優しかった。楽しかった。 (友の会事務局)指導者の継続に課題がある。後継者の育成を進めたい。
	地域連携協力事業	・ライオンズクエストワークショップ 若手教員等28名 ・国立赤城青少年交流の家主催「あかぎフェスタ」へのクラフトブース出展 高校生短期インターンシップ受け入れ 3名 ・大学生の社会教育学習 大学生2名 ・町たんけん(小学校2年生の施設見学)		6団体から申し込み・協力依頼あり(大学2、その他4)
	新年交歓会	当事業団の関係者が一同に会し親睦を深めることにより、各種事業の広報と関係機関との連携強化、施設の一層の利用促進を図り、当事業団の充実発展を目的に開催する。 参加者 75人		・茶道会青年部による開会前の呈茶で交流できた。 ・新春落語が面白かった。
	団体補助	事務局運営用補助金の交付		5団体

6 利用者満足度調査等の結果及び対応状況

利用者満足度調査については、①施設利用、②青少年健全育成事業でそれぞれ実施している。

①施設利用

(実施期間)

通年で実施した。

(実施方法・回収率等)

施設利用団体責任者へアンケート調査を実施した。利用団体1,119団体から610通回答(回答率約54%)

(項目別回答集計)

- ▼性別:男性51% 女性45% 未回答4%
- ▼年代:高校生以下21% 大学生4% 20代8% 30代15% 40代15% 50代22% 60代以上13% 未回答2%
- ▼地域:前橋市内33% 市外26% 県外39% 未回答2%
- ▼利用頻度:初めて32% 週に数回1% 月に数回19% 年に数回35% ほとんど利用しない9% 未回答4%
- ▼職員の対応:満足79% まあ満足14% 普通5% やや不満0% 不満0% 未回答2%
- ▼料金設定:満足66% まあ満足14% 普通9% やや不満1% 不満6% 未回答4%
- ▼利用時間の設定:満足75% まあ満足15% 普通7% やや不満1% 不満0% 未回答2%
- ▼照明の明るさ:満足73% まあ満足15% 普通9% やや不満1% 不満1% 未回答1%
- ▼清潔度:満足67% まあ満足23% 普通7% やや不満1% 不満0% 未回答2%
- ▼使いやすさ:満足66% まあ満足23% 普通7% やや不満1% 不満1% 未回答2%
- ▼案内表示の分かりやすさ:満足72% まあ満足16% 普通9% やや不満1% 不満1% 未回答1%
- ▼安全性:満足67% まあ満足22% 普通8% やや不満0% 不満1% 未回答2%
- ▼総合的な印象:満足71% まあ満足18% 普通8% やや不満1% 不満0% わからない2% 未回答2%
- ▼交通手段:自動車76%、公共交通機関6% 自転車1%、徒歩1% その他7% 未回答9%
- ▼知ったきっかけ:会館HP 29% リーフレット2% 事業案内1% 新聞0% ブログ0% X0% 知人30% その他31% 未回答7%
- ▼利用目的:会議室40%、宿泊44%、主催事業参加1%、その他13% 未回答2%
- ▼利用する際の手続き・申請方法について:便利61%、普通30%、不便1%、未回答8%
- ▼また利用したいか:利用したい94%、どちらともいえない4%、利用しない1%、未回答1%

(利用者からの意見等)

- ・レストランを使用したい、再開して欲しい。(7月以前)
- ・シャワーの水圧が弱かった。
- ・宿泊利用できて充実した合宿になった。
- ・浴室の脱衣所が寒かった。
- ・ベッドの大きさがもう少し大きいとよい。
- ・急な会場変更に対応してもらって助かった。Wi-Fiも使用できてよかった

(調査結果分析)

総合的な印象では、「満足」と「まあ満足」を合わせて89%、さらに「また利用したい」との回答が94%と高く、利用者から満足度の高い評価を得ている。また、大きな苦情は寄せられなかった。

(調査結果への対応状況)

(要望)風呂の時間を延長して欲しい。

(対応)宿泊人数や男女比等を確認し、できる限り不便がないように時間調整している。また、交通事情で到着が遅くなってしまった団体には入浴時間を延長して対応した。

(要望)浴室の脱衣所に時計が欲しい。

(対応)職員が壁に金具を取付け、時計を設置した。

(要望)照明が少し暗く感じた。

(対応)通路の照明の一部をLEDに交換した。

(要望)食堂が利用できるとよかったと思う。

(対応)朝食、夕食が配達可能な業者のリストを作成し、予約受付時とWebで案内した。また、空き会議室等を調整し、食事会場として利用してもらった。

②青少年健全育成事業

(実施期間)

事業後にアンケートを実施した。

(実施方法・回収率等)

事業終了時にアンケート用紙を配布して記入してもらう。参加者796名、ボランティア374名から、概ね1,160通程度の回答を得た。

(項目別回答集計)

各事業毎に、感想・応募動機・要望等についての設問を設けて集計し、結果分析を行っている。

8月にアンケートを見直し、応募動機、達成度、交流等、対象に合わせて記述や選択から感想と意見をもらった。

(利用者からの意見等)

○小学生

- ・初めてお茶を点てた。お菓子のいただき方も学んだので帰ったら家族に話したい。(夏休み茶道体験)
- ・高校生が優しかった。説明がわかりやすかった。(高校生と小学生の夏休み交流活動)

○高校生ボランティア

- ・子どもと留学生のふれあいのお手伝いだけでなく、自分たちのボランティアも楽しめた。(交流文化体験)
- ・事前研修で団体の方にアドバイスをもらったので不安なく子どもたちに接することができた。(青少年団体活動支援事業)
- ・小学生との交流は良い刺激になった。社会に出ると色々な年代の方と接する機会が多くなる。このような交流には大きな学びがあった。(高校生と小学生の夏休み交流活動)

○青少年団体

- ・高校生ボランティアを中心に活動できたので、いい内容だった。(青少年団体活動支援事業)
- ・子どもたちとコミュニケーションを取りながら宿題のサポートができ、充実感があった。(青少年団体活動支援事業)

(調査結果分析)

- ・小学生の体験・交流活動では、どの事業でも概ね楽しかったとの回答を得た。
- ・今年度は高校生ボランティアを広く募集したところ、新たな学びや体験による充実度が高いという回答が目立った。
- ・アンケートの実施結果は県指定様式の事業報告書に集約し、職員で共有した。

(調査結果への対応状況)

- ・高校生ボランティアに事前研修を行い、青少年団体指導者及び職員が趣旨や活動について説明を行った。今後も事前研修は継続する。
- ・青少年団体の協力により、高校生ボランティアが充実した活動できるようプログラムを準備した。
- ・高校生ボランティアが継続して参加できるよう、事業終了時に事業案内や団体紹介を行った。

(その他苦情・要望等及びその対応状況)

なし

7 管理運営状況の評価（A:優良、B:良好、C:要努力、D:要改善）

評価項目	総合	評価の考え方	評価できる事項及び
総合評価	B	・事業計画に基づき青少年健全育成事業に取り組み、利用者の満足度も高く、良好な管理運営状況である。 ・青少年健全育成事業については前年度に比べて新規事業の増加や人気企画の開催回数の増加等の改善が見られる。「青少年会館」を取り巻く環境の変化を理解し、施設に求められる役割・ニーズを考慮しながら、時代に即した事業を実施していただきたい。	<評価できる事項> 施設の維持管理によく努めており、また、利用者の満足度も高い。昨年度評価委員会での指摘事項にも新たな取組によって改善しようとする姿勢が見られる。 <改善すべき課題> 前年度に比べて利用者数の改善は見られるものの、コロナ禍前と比較するとまだ少ない状況にある。改善策を実施しているが、結果を見るに十分とはいえない。

（個別項目ごとの評価）

評価項目	評価
平等利用の確保	A
サービスの提供内容	B
管理費用の執行状況	A
管理運営体制	B
法令遵守等	A
労働条件評価の実施	無

評価項目	評価
利用者対応	A
地域貢献	B
環境問題への取組	B
防災対策及び緊急時の対応	A
個人情報保護及び情報公開	A

（参考）指定管理者の自己評価及び評価委員会の年度評価結果

	総合評価	評価の考え方
指定管理者の自己評価	B	職員体制の一新、5つの新規事業の実施、SNSによる広報の充実、高校生ボランティアの積極的な受け入れ等、既存のやり方にとどまらず新たな取組を始めるとともに、従来から行っている施設の雰囲気づくりや、青少年団体の支援、経費節減も継続して尽力した。
評価委員会の年度評価	B	・全体的には一定の水準を満たしているが、顧客目線にたった利便性の向上が必要。 ・努力は認められるが、利用者増に十分結びついていない。他施設の調査で得た知見を今後の事業運営・業務推進に生かしてほしい。